



带状疱疹予防接種を受ける方へ

—予防接種に欠かせない情報です。必ずお読みください—



接種を受けることができない人

- ① 明らかな発熱がある人（37.5 度以上）
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ③ この予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある人
- ④ その他、医師から不適当な状態と判断された人
- ⑤ 生ワクチンの接種を希望する人において以下に該当する人
 - ・妊娠していることが明らかな人
 - ・明らかに免疫機能に異常がある疾患を有する人
 - ・免疫抑制をきたす治療を受けている人

予防接種を受ける前に、医師とよく相談しなくてはならない人

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液その他慢性的の病気で治療を受けている人
- ② 予防接種を受けた後、2 日以内に発熱のみられた人又は全身性発疹等のアレルギーを疑う症状があった人
- ③ 今までにけいれんを起こしたことがある人
- ④ この予防接種の接種液の成分に対して、アレルギーがあるといわれたことがある人
- ⑤ 過去に免疫不全の診断を受けた人又は近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
- ⑥ 組換えワクチンを希望する人で、血小板減少症や凝固障害を有する人または抗凝固療法を施行している人。

他のワクチンとの接種間隔

医師の判断によりほかのワクチンと同時に接種することが可能です。

生ワクチンを接種後、ほかの生ワクチンを接種する場合は 27 日以上の間隔を空ける必要があります。

予防接種を受けた後の一般的注意事項

- ① 予防接種を受けた後 30 分間は、急な副反応が起こることがあります。医師（医療機関）とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。
- ② 副反応の多くは 24 時間以内に出現しますので、特にこの間は体調に注意しましょう。
- ③ 入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこすることはやめましょう。
- ④ 接種当日はいつも通りの生活をし、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。
- ⑤ 接種した部位が痛みや熱をもってひどくはれたり、全身のじんましん、繰り返す嘔吐、顔色の悪さ、低血圧、高熱などが現れたら、医師（医療機関）の診療を受けて下さい。

予防接種健康被害救済制度について

定期の予防接種による副反応のために、医療機関で治療が必要になった場合（健康被害）は、法律に定められた救済制度（健康被害救済制度）があります。

带状疱疹予防接種 Q & A

Q1 带状疱疹とはどんな病気ですか？

带状疱疹は、水痘带状疱疹ウイルスが再活性化することにより、神経に沿って、痛みを伴う水疱（水ぶくれ）が現れる皮膚の病気です。合併症の一つに皮膚の症状が治った後にも痛みが残る「带状疱疹後神経痛」があり、日常生活に支障をきたすこともあります。

Q2 带状疱疹ワクチンの定期接種で使用できるワクチンは何ですか？

带状疱疹ワクチンには生ワクチン、組換えワクチンの 2 種類があり、いずれか 1 種類を接種します。各ワクチンは、接種回数や接種方法、接種スケジュール、接種条件、効果とその持続期間、副反応などの特徴が異なります。なお、医療機関により取扱うワクチンが異なる場合がありますので、接種を希望される方は、【書類番号 1】の裏面に記載された医療機関一覧表をご確認ください。

Q3 2つのワクチンの接種回数や接種方法、接種スケジュールにはどのような違いがありますか？

○ 生ワクチン

皮下に1回接種します。

○ 組換えワクチン

2か月以上の間隔をあけて2回筋肉内に接種します。病気や治療により、免疫の機能が低下したまたは低下する可能性がある方等は医師が早期の接種が必要と判断した場合、接種間隔を1か月まで短縮できます。

Q4 带状疱疹ワクチン（生ワクチン、組換えワクチン）にはどのような効果がありますか？

生ワクチン、組換えワクチンのいずれも带状疱疹やその合併症に対する予防効果が認められています。

带状疱疹に対する効果	生ワクチン	組換えワクチン
接種後1年時点	6割程度の予防効果	9割以上の予防効果
接種後5年時点	4割程度の予防効果	9割程度の予防効果
接種後10年時点	—	7割程度の予防効果

合併症の一つである、带状疱疹後神経痛に対するワクチンの効果は、接種後3年時点で、生ワクチンは6割程度、組換えワクチンは9割以上と報告されています。

Q5 带状疱疹ワクチン（生ワクチン、組換えワクチン）を接種することにより、どのような副反応の発生が想定されますか？

ワクチンを接種後に以下のような副反応がみられることがあります。頻度は不明ですが、生ワクチンについては、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、無菌性髄膜炎が、組換えワクチンについては、ショック、アナフィラキシーがみられることがあります

主な副反応の発現割合	生ワクチン	組換えワクチン
70%以上	—	疼痛*
30%以上	発赤*	発赤*、筋肉痛、疲労
10%以上	そう痒感*、熱感*、腫脹*、疼痛*、硬結*	頭痛、腫脹*、悪寒、発熱、胃腸症状
1%以上	発疹、倦怠感	そう痒感*、倦怠感、その他の疼痛

*：ワクチンを接種した部位の症状

Q6 生ワクチンと組換えワクチン、どちらのワクチンを接種するのがよいのですか？

生ワクチン、組換えワクチンはそれぞれ、接種回数や接種方法、接種スケジュール、接種条件、効果とその持続期間、副反応などの特徴が異なっています。

接種を希望される方は、医師とも相談の上、接種するワクチンをご検討ください。

<問合せ先>

大牟田市保健福祉部保健衛生課 保健予防担当

電話：0944-41-2669